

二刀流

藤井 秀毅*

最近、「二刀流」という言葉をよく耳にする。これに関しては、やはりメジャーリーガーの大谷翔平選手の影響がかなり強いだろう。この「二刀流」とは元々は、剣術の一つを意味しており、宮本武蔵が開いた「二天一流」がもっともよく知られている。両手に太刀（長い刀）、小太刀（短い刀）を持ち戦う術法であるが、私は剣道にある程度極めたので、この難しさを理解している。詳細は割愛するが、経験者の私からすると、剣道においては二刀流は非常に難しい流派ではないかと思わざるをえない。ちなみに宮本武蔵は剣術家であるとともに、優れた画家であった点からも二刀流であったといえる。

野球に関してであるが、メジャーリーグでは大谷選手の影響もあり、「二刀流」つまり「Two-way player」が見直されてきている。古くはベーブ・ルースに代表されるようにメジャーリーグでも Two-way player が存在していた。しかしながら、野球の精密化、分業化に伴い、このような選手は見られなくなってきた。投手においては starter, set up, closer と各々の役割によって、投球術が変わってくる。ただ、驚くことに、大谷選手の登場により、メジャーリーグでは次々にルールが改正されている。日本において、多くのプロ野球選手は、少年時代はエースで4番であったと思われる。また、アメリカではほかのスポーツでも一流であった選手がメジャーリーガーになることもあると聞く。難しいことかもしれないが、本来の野球は「打って」

* 神戸大学大学院医学研究科腎臓内科/腎・血液浄化センター

「守れて」「走れて」が基本であり、少年時代はその喜びや楽しさを感じてプレーしていたはずである。また、投手および打者両方の側面からみて、さらに進化するヒントとなることを知りうることもある。メジャーリーグでは原点に返り、その重要性、またそのような選手の有用性を考え、ルールを変えてきていると思う。

医学の世界でも同じではないだろうか。研究しかしない医師が少数いてもよいと思うし、臨床一本で医師としての人生を全うするのもよいと思う。ただ、若手の医師にいつも話をしているが、研究を行い研究者としての考え方を身に付けると、臨床の視野が広がり、臨床医としてのレベルが格段に上昇すると私は思っている。もちろん、研究一本でも臨床が素晴らしくできる医師や、研究を全くしたことがなくても臨床が素晴らしくできる医師がいるかもしれないが、このような天才を除いた多くの医師はこの両方を経験することによって、はじめて医師としての高いレベルに到達することができるのではないだろうか。したがって、多くの若い医師には「二刀流」を意識して頑張ってもらいたいと思うし、これが、医療のレベルの上昇につながると信じている。このような環境をうまく作っていくことが、今後の課題ではないかと考える。